

令和四年第九回  
世田谷区教育委員会定例会

時 令和四年五月十日

所 世田谷区教育委員会会議室

午前十時開議

○渡部教育長 ただいまから令和四年第九回世田谷区教育委員会定例会を開会いたします。

亀田委員は、本日はオンラインで参加をしております。

なお、今回は地方教育行政の組織及び運営に関する法律第十四条第三項に基づき会議は成立しているので、申し添えます。

まず、次第の1、令和四年第八回定例会会議録の承認についてですが、これに御異議ございませんか。

「「異議なし」の声あり」

○渡部教育長 御異議なしと認め、会議録を承認することといたします。

次第の2、本日の署名委員を指名させていただきます。澁澤委員と鈴木委員、どうぞよろしく願いいたします。

本日は、事務局からの報告が一件ございます。

それでは次第の3、報告事項の聴取に入ります。

(1)「第二十九期世田谷区社会教育委員の会議」の活動報告について、本件に関して、加野生涯学習・地域学校連携課長より説明をお願いいたします。

○加野生涯学習・地域学校連携課長 それでは、「第二十九期世田谷区社会教育委員の会議」の活動報告について御報告をいたします。

1、主旨でございます。区教育委員会は、社会教育法及び区条例により社会教育委員を設置し、社会教育に関する区の任務について意見をいただいております。このたび「第二十九期世田谷区社会教育委員の会議」から、二年間の活動報告書が提出されたので、報告いたします。

社会教育委員は、学識経験者、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者十名で構成されており、第二十九期の任期は、令和二年六月一日から令和四年五月三十一日でございます。

4、第二十九期のテーマと諮問概要です。テーマは、「地域と学校でつくる連携・協働のしくみ」とし、世田谷区にある地域と学校の連携、協働の仕組みとして、地域運営学校、学校支援地域本部のほかに、子どもぶんか村やおやまちプロジェクト等を踏まえ、これらの背景や成果と課題等を検証する「地域と学校でつくる連携・協働の新たなしくみづくり」について諮問いたしました。

5、活動内容は記載のとおりでございます。

6、報告書につきましては、「第二十九期世田谷区社会教育委員の会議活動報告書」を後ほど御覧ください。

概要について、御説明をいたします。別添A3の資料を御覧ください。左側中央部分では、第3章、課題抽出及び整理について記載をしております。右側中央部分、提言を御覧ください。提言としましては、どの地域でもある資源をジョインターの存在により有機的に組み合わせることで、新たな連携、協働が可能となるとして、持続可能な連携、協働の仕組みが構築される方策が提示されています。

方策1では、連携に必要なジョインターの育成とネットワーク化として、後継者が育つような仕組みづくりをはじめ、ワークショップやシンポジウムを開催し、おやまちプロジェクトをはじめとする区内の成功事例やジョインター相互の意見交換、交流等の機会の場を持ち、ジョインターの育成と確保につなげていくとしています。また、方策2、誰もが参加できる環境整備では、誰もが気軽に参加し、地域への思いを発信できるような環境の整備が重要であるとし、「地域の未来を考える会（仮称）」の開催や、誰もが「やってみたい」を発信し共有できる場の提供を示しています。さらに、方策3、今後の発展に向けた新たな視点と手法として、オープンイノベーションの考え方を取り入れながら多様な人材を有機的に組み合わせることで、これまでにない連携、協働を生み出すことが重要と結ばれています。

社会教育委員の会議では、この提言を次回第三十回の会議での諮問につなげることに より、より有益な活動を展開してまいります。

報告は以上でございます。

○渡部教育長 ただいまの説明に対して、御質問、御意見がございましたら、どうぞ。

○中村委員 概要版の方策のところ、ワークショップやシンポジウムと記載されておりすけれども、福祉の業界でもワークショップを開催して、目指す地域像を共有化して、それで地域の助け合いを生み出すということが今現在、全国各地で行われて、一つのセオリーになっています。それで、そこでは協議体というものをつくって、そういう問題を話し合うような場も設定されております。ぜひそれも参考に、このワークショップを開催し、各地域ごとに目指す地域像の共有化を図られて、この問題に対峙していただければと思います。

それから、方策案①のところ、「地域の未来を考える会（仮称）」がありますが、報告書のほうも拝読させていただきましたが、既存の学校協議会などをうまく発展させて、これにうまくつながるような仕掛けも可能なのかと思いますので、その辺もぜひ取り組んでいただけたらと思います。よろしく願いいたします。

○加野生涯学習・地域学校連携課長 御意見どうもありがとうございます。御提案を踏まえながら、進めていきたいと思えます。ありがとうございます。

○澁澤委員 教育ビジョンの中でも、やはり私たちは地域に開かれた学校ですとか、地域との連携ということをととても重要な世田谷らしい教育のテーマにしています。今まではやはり教育現場の中に地域という視点をどうやって取り組むかということで努力した、まだそこまでだと思っております。今度は地域の中に学校というものをどう位置づけるか、そろそろその段階に来ているのかと思っております。その意味では、このように社会教育委員と教育委員会という

のはやはり相互に意思疎通をしながら、一緒に頭をひねって、汗をかいていくという作業がどうしても必要になってくると思っておりますので、教育委員会のいろいろな会議体の中でも、社会教育委員との意見交換ですとか、あるいは問題、課題に対してのお互いのディスカッションですとか、そのようなことをぜひ組み込んでいただきたいなというところは一つあります。

それからもう一つは、背景としては、地域というのは、ある意味では学校教育の用語で言うと、非認知的能力の集積の場というふうに言えます。このコロナの二年間ぐらい私の主催している「聞き書き」では、オンラインが中心でした。その結果、この二年間で出てきた成果物というのはノウハウ集になってしまうのです。こうやったらこう地域ができる。ノウハウ集では地域は回らなくて、やはりフェイス・ツー・フェイス、それからお互いのありとあらゆる情報、言語化できない情報、その部分をどう共有していくかということがすごく重要なことだと思います。学校教育も非認知的能力、特に幼児教育の部分では非常に重要だと言われていますし、これから私たちが目指す探究的学びということにつながっていくときには、どうしてもこの領域は外せなくなってくる。

つまり非認知的ではないものは、ある意味ではタブレットに全部集約することができます。ですけれども、非認知的な部分・身体性とも言われる領域というのは、授業の場ですとか、あるいは地域の場でしか子どもたちに伝えていくということ、感じさせていくということができない部分ですので、学校教育にとってもこれから地域というのはとても重要になってくると思えます。

それからもう一つは、やはり今後、防災ということで、必ず近い将来、この関東地区にも巨大な地震ですとか、あるいは地震だけではなくて、いろいろな天候障害ということが起きてくる可能性は非常に高いと言われています。私も三・一一の後にいろいろな避難所を回らせていただいたのですけれども、被災した後の立ち上がり、要するに復興に向けての未来にどう希望を見つけていく

かという部分では、地域自治の部分、あるいは社会教育と学校教育の関わり部分の部分がしっかりしているところは、やはりすぐ避難所の時点から次へ向かってのステップが切れたのです。ところが、やはり地域内での関係が疎遠になって、学校は学校、地域は地域というところの避難所は、それを一本にまとめていくというのはとても大変でしたし、それぞれが役割分担をしようとしたときには、自分にお役が回ってきた、義務が回ってきたということで、皆さん非常に非協力的なのです。

そういうことを考えると、日頃からこういう学校現場と地域というのは密接にいろいろな接点を持てる場をどうつくっていくか。かつては、日本ではそれが祭りの場だったのだと思うのです。ですけれども、今は祭りがイベント化してしまっていますので、いろいろなそういう場をやはりこちらがデザインをしていかないといけない時代に来ていると思います。これをどう学校教育の中に生かせるか、また、学校を地域にどう生かせるか、その辺のディスカッションを本年度からぜひ深めていただきたいなと思っています。

○加野生涯学習・地域学校連携課長 御意見どうもありがとうございます。地域の様々な自主的な力とどのように連携していくかということについてきちんと議論を交わしていきたいと思います。ありがとうございます。

○鈴木委員 活動報告ありがとうございます。活動報告書を拝読させていただきました。きまして、きちんとまとめられておりましたので、分かりやすく、ありがとうございます。ありがとうございます。

私は、PTAの立場から意見を述べさせていただきたいと思っています。読んでいますと、方策案①とかでも、PTAに対して非常に期待をいただいているということですが、これはとてもいいことだと思いつながらぬ、実際問題、PTA自身が疲弊しております。さすがの世田谷区でも、世田谷区はほかの地域よりもPTAに関しては非常にしっかりしていますし、活動もほかの地域より

も活発なのですが、さすがにこのコロナ禍の二年間で活動ができなかったとか、また、保護者の意識が今までとかなり変わりましたので、このようにいかどうかというのは実は疑問視しております。ジョインターとして非常に前向きに取り組んでくれる方もいると思いますが、PTAを一時期だけの一つのお役目として、「一回やればいいや」、「私たちはこれでお役御免ですよ」みたいな形で、もう何もやりたくないとか、やる必要がないと思っている方も多々おります。その方々の意識——意識を変えろというのはなかなか難しいと思います。こういうことも、皆さん、今後のことを考えて御理解と、今後、継続的に活動していただけるような方法というのも考えていただけるといいと思います。

また、PTAをした方々が、青少年委員や、地域の学校支援コーディネーターや学校運営委員など、いろいろ関わってくださっているのですけれども、どうしても一部の方だけなのです。その方々の負担がとても大きくて、いつまでもやめられない、ずっとやり続けなければいけない、私たちはいつまでやらなければいけないのだろう、後継者が育たない、見つからないという問題が非常に大きいので、そのあたりもどうしていったらいいかをまた改めて考えていったほうがいいかと思えます。

○加野生涯学習・地域学校連携課長 御意見どうもありがとうございます。PTAの方の活動の幅ですとか、持続性についてきちんと提示して、議論をしていきたいと思えます。どうもありがとうございます。

○亀田委員 御説明ありがとうございます。今回の報告について、十名の方が二年間にわたって御議論いただいたということで感謝したいと思います。提言はとてもよいことが書かれていると思えますので、これを具体化していくことが大事かと思えます。

そこで二点なのですけれども、一点目は、ここに書かれている提言を今後ど

のように具体化していくかということがもし現時点であれば教えていただきたいと思えます。

もう一点は、例えば今年度の施策で、この部分は今回の提言を具体化したものとか、来年度の予算案でこの部分は今回の提言を具体化したものとか、そういったことを一度整理してお示しただけるとよいかと思えますが、いかがでしょうか。

○加野生涯学習・地域学校連携課長 御質問ありがとうございます。次にどう生かしていくかということでございますが、今年度から次の第三十期の社会教育委員の会議が二年間にわたって改めて始まりますので、今回の提言を次回の諮問につなげていって、二年間で具体化していくことを現在検討しております。ですので、そういったところで具体策も示されていくような形になると思いますので、二つ目の御意見にありました予算との関係ですとか、そういったところについても折に触れて分かりやすいように御提示できるように工夫してまいります。

○渡部教育長 今年度からワークショップは開催することになっているのですね。今年度、ワークショップを開催して、その輪を広げていくところから始めていくということですよ。

○加野生涯学習・地域学校連携課長 そうです。

○内田生涯学習部長 予算の関係等で申しますと、今年度につきまして、ワークショップ、シンポジウムの開催等を考えておりまして、この点について予算上は確保しておりますので、そこにつなげていきたいと考えております。

○亀田委員 今の御説明は、四年間で結果を出すというよりも、本年度からできるところは具体化していく、そういう御説明という理解でよろしいでしょうか。

○内田生涯学習部長 委員おっしゃるとおり、今年度、今回の提言を受けまし

て行えるところは行っていきまして、さらに具体的なものについて次回につなげていきたいと考えております。

○渡部教育長 今年度からできるところから進めていって、来年度はまた次の三十期に入るので、そこまでまた具体化したものを計画していくということですか、これに沿ったものを計画していくということでしょうか。

○内田生涯学習部長 はい。

○渡部教育長 お願いします。ほかはよろしいでしょうか。

それでは、(2)その他の連絡事項等はございませんか。

本日は資料配付が二件ございますので、御覧になっておいてください。

次回の教育委員会は、五月二十四日火曜日午前十時から教育委員会会議室において開催いたします。

以上をもちまして本日の日程は全て終了いたしました。

これをもちまして令和四年第九回世田谷区教育委員会定例会を閉会いたします。

午前十時十八分閉会